東京工芸大学同窓会　会報

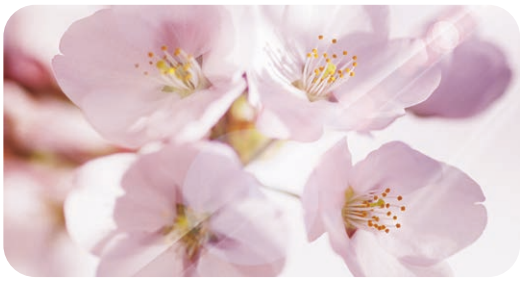
ひろば

Vol.148
HIROBA

発行日：2024.6.1　発行人：安達 洋次郎
〒164-8678　東京都中野区本町 2-9-5　TEL & FAX 03-5371-2732（事務局）
http://www.kougei-dousoukai.jp　dousoukai@kougei-dousoukai.jp（受信専用）

卒展×同窓のつどい
卒業制作展
卒業のことば
ホームカミングデー
フォックス・タルボット賞
学位授与式
卒業祝賀会
ひろばのページ

写真提供：都筑写真事務所



卒展×同窓のつどい

「卒展×同窓のつどい」は、中野キャンパスで開催される大学の卒業制作展に合わせて、同窓会主催の後輩達への激励、旧交を温める空間の提供を目的に企画されたイベントです。軽食と飲み物を用意し同窓生と恩師、後輩達（現役の学生達）が「おしゃべりの場」として気軽に参加できる会で、2017年に初めて開催されました。毎年多くの方々にご参加、ご好評を頂いていましたが、新型コロナの蔓延により2020年開催が急きょ中止になり、以来開催を見送っていました。今回、コロナが５類になったことで、５年ぶりの開催となりました。会場には多くの方に集まって頂き大いに盛りあがりました。

前回の「ひろば147号」が創立100周年記念の記事を掲載するために、発行が１月末にずれ込んだ影響に加え、発送時期に大雪が降り配送が遅れてしまいました。その為、本イベントのご案内が開催直前となってしまい、参加できなかった同窓生の方も多かったようです。申し訳ございませんでした。また次回開催の折に皆様方とお会いできるのを楽しみにしています。（上田 耕一郎　75期）

「卒展×同窓のつどい2024」アンケート結果

・来て良かったです。料理が美味しかったです。
・学科ごとに集まるテーブルを分けてもらえると会いやすいかもしれません。

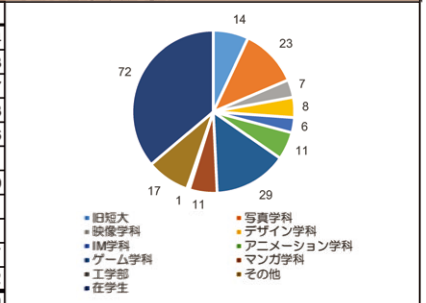
またメールアドレスなどを収集して、１か月ぐらい前から日程をアナウンスしてもらえると集まりやすいと思いました。毎回ありがとうございます！
・息子が４年生で大変お世話になり、ありがとうございました。本日はランチ券も無料でいただき、このつどいでもたくさんの軽食をいただきまして、とても美味しかったです。素晴らしいおもてなしを受け、感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。

吉野学長

安達会長

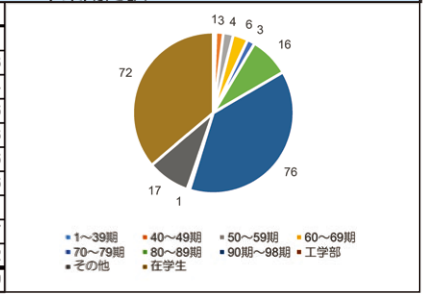
参加者学科内訳

	人数
旧短大	14
写真学科	23
映像学科	7
デザイン学科	8
IM学科	6
アニメーション学科	11
ゲーム学科	29
マンガ学科	11
工学部	1
その他	17
在学生	72
合計	199



卒業期内訳

	人数
1～39期	1
40～49期	3
50～59期	4
60～69期	6
70～79期	3
80～89期	16
90期～98期	76
工学部	1
その他	17
在学生	72
合計	199



写真提供：都筑写真事務所

卒展委員長の言葉「卒制展を終えて」

去る2024年２月16日(金)から18日(日)の三日間に渡り、「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展 2024」が中野キャンパスで開催されました。2024年は101年目の新たなスタートとなる年でその最初の大きなイベントとなりました。

芸術学部 の７学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ)及び大学院芸術学研究科が揃って展示・上映を行いました。

昨年までは新型コロナウィルスの影響も色濃く、招待制を基本とした開催になっておりましたが、ようやく以前と同様の一般入場も可能なスタイルに戻ることが出来ました。

開催当日は、久しぶりにかなった自由入場に参集した学外の友人に、自身の作品を紹介する学生の皆さんの笑顔なども各所で見受けられました。

思えば、今年卒業制作・研究を発表した学部学生の皆さんは、入学時直ぐにコロナ禍に見舞われ、大学生活に大きな不安を抱えての入学となった皆さんです。学部学生は４年間、大学院生は２年間、困難な影響下にあった学びや研究制作活動ではありましたが、卒業・修了のタイミングでは従前のスタイルで締めくくることが出来ましたことを、卒業制作展委員として心より嬉しく思っております。

また、このような形で101周年目の気持ち新たなイベントを無事終えることが出来ましたのは、学生や教職員の皆さんのご尽力のおかげであることにお礼を申し上げるとともに、同窓会の皆様の多大なるご支援の賜物と心より深く感謝申し上げます。

さて、今年度の卒業制作展は2025年２月14日(金)から２月16日(日)まで開催を予定しております。一時は影響のありました学生生活も既に従前通りに戻り、以前にも増して充実してまいりましたので、卒業修了制作も更なる発展を遂げるものと期待しています。同窓会の皆様におかれましてはこれまでと同様、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

卒業制作展委員会委員長
准教授 水谷 元(デザイン学科)

オープニングセレモニー

メインビジュアル「うぇいくあっぷみらくる！」
三枝志帆(デザイン学科４年)

卒業制作展の写真提供：都筑写真事務所

卒業制作展

写真学科

卒業のことば

写真学科　大矢 彩加

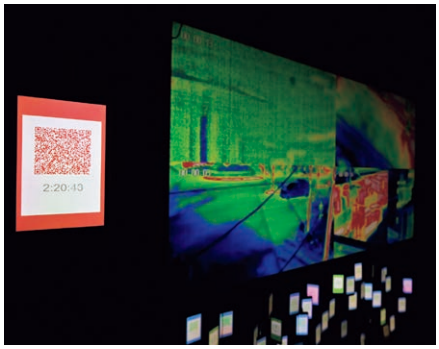
大学での４年間は、私の人生の中で最もスリリングだったと思います。当時目指していた会社の広報担当になりたくて始めた写真。それが徐々に芸術領域の写真にのめり込み、気づけば制作と展示三昧の日々になっていました。通常半年はかかる屏風作品を１ヶ月半で制作したり、突如幅７mの壁で展示をすることになったり、卒業制作では提出日当日までブラッシュアップを重ねたり…本当に苦しくも楽しいことばかりでした。

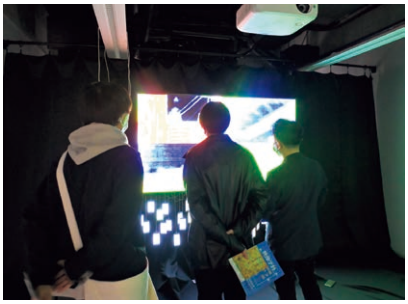
この大学での学びは、私を想像もしなかった場所へ連れていってくれました。魔法のように思うこともありますが、これは教授や仲間、施設環境、そして家族のお蔭だと強く感じています。的確なアドバイスや、価値観が変わるような作品の数々、そして気兼ねなく相談できる環境に何度も救われました。そうしてやっと生まれた作品を面白がってもらえた時は、何ものにも代え難い喜びがありました。

この経験はこれから先様々な場面で心に浮かぶのだろうと思います。卒業は寂しいですが、工芸大での日々はいつまでも忘れません。

卒業制作展

映像学科





卒業のことば

映像学科　波多野 沙耶加

「テレビカメラマンになりたい！」

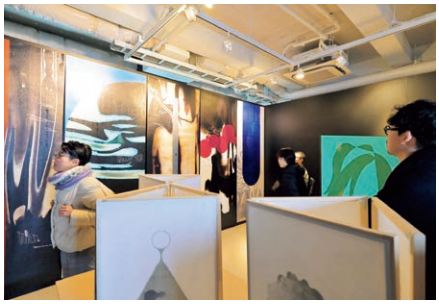
私が小学生の時からの夢です。

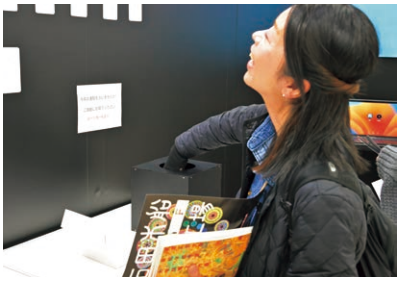
私は幼い頃からテレビ番組を見ることが大好きでした。私の日常生活で欠かせないテレビ。そんなテレビのことをよく知りたい、自分もテレビ番組を作ってみたい。そう思ったことがテレビカメラマンを目指すきっかけでした。東京工芸大学にはテレビのスタジオ番組でよく目にする大きなスタジオカメラがあり、スタジオ番組を制作する授業で使いました。初めて自分でカメラを扱ったときの嬉しさ、感動を今でもよく覚えています。きっと今後も忘れることはないでしょう。

私が大学で学んだことは、仲間と一緒に一つのモノ（番組）を作るときにはコミュニケーションが欠かせないということです。モノ（番組）を作るときは、まず話し合うことから始まると思います。そして、より良い番組を作るためにさらにコミュニケーションを取るのです。話し合いをすることでお互いの考えが分かり、疑問が解消するのです。

コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面で必要になると思います。これからもいろんな人と積極的にコミュニケーションを取っていきたいと思います。

卒業制作展
デザイン学科
グラフィックデザイン領域





卒業のことば

デザイン学科　グラフィックデザイン領域　首藤 琳華

大学で学んだことを地元に持ち帰る。そんな思いで入学しました。幼いころから、絵を描いたりものを作ることと、出身地である長野県諏訪市が大好きで、将来は自分の得意分野を活かして地元に貢献できる仕事につきたいと思っていました。

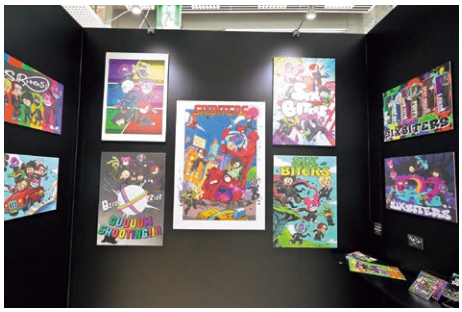
コロナウイルスによって１年間大学に通えませんでしたが、２年生からは大学に通う機会が増え、様々な分野に触れる中で学ぶことの全てが楽しく魅力的に感じ、人と直接関われることの喜びをかみしめながら目標に向けて夢中で取り組んでいました。

また、この４年間は、私を人として成長させてくれた４年間でもありました。多くの作品を制作してきましたが、決して楽しいことばかりではなく、苦しい、つらいと思う時もありました。しかし、諦めようとは一度も思いませんでした。くじけそうになっても熱心に指導して下さった先生方や互いに励まし合いながら切磋琢磨した友人たち、そしていつもそばで応援してくれた家族の支えがあったからこそ、最後まで諦めずにやり遂げることができたのだと思います。

卒業制作は地元の霧ヶ峰高原をテーマに制作しましたが、学生生活最後の作品を郷土愛をもって制作に取り組めたこと、そして最後まで支えて下さった多くの方々に感謝しています。

卒業後は、感謝の気持ちを常にもち、人と人との繋がりを大切にすることを忘れずに地元で頑張っていきたいです。

卒業制作展
デザイン学科
イラストレーション領域



卒業のことば

デザイン学科　イラストレーション領域　宝積 一蔵

私は幼少期から絵を描くことやものを作ること自体は好きでしたが、東京工芸大学に入学した当初は知識も不足していた上にデッサンすら未経験の状態でした。そのため、１年次の課題作品はお世辞にも良いと言えるものではなく、周囲との差に危機感を抱き「せめて人一倍考えて努力をしよう」と考えるようになりました。
２年の後期にはどうにか自分のスタイルを確立させることができ、そこからはひたすら制作に没頭しました。この４年間はあっという間に過ぎ去ったように感じられますが、振り返ると自分が作り上げたものたちが確かに存在していて、濃密な時間だったと気付かされます。

ただずっと走り続けていたような感覚でしたが、ありがたいことに卒業制作展では芸術学部大賞を頂くことができました。今後はイラストレーターとして活動することを目標に、引き続き邁進していきます。

改めましてご指導いただいた先生方や先輩方、共に過ごした仲間の皆、本当にありがとうございました。私にとって間違いなく最高の環境でした。後輩たちの大学生活も、どんな形であれ素晴らしいものであることを祈っています。

卒業制作展

デザイン学科

映像情報デザイン領域

卒業のことば

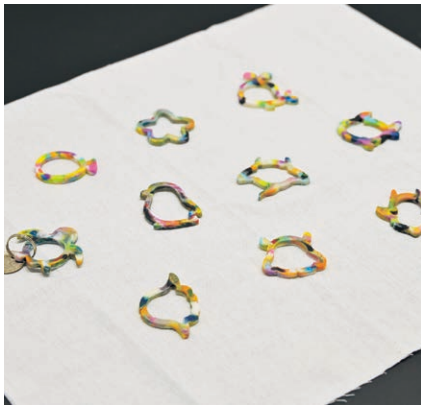
デザイン学科　映像情報デザイン領域　増田 峻也

物心が付いた頃から絵を描くことが好きで、興味のある美術の道を伸ばそうと思い入学しました。私は元々、絵を描く仕事に就きたいと思っていましたが、一年次に幅広い分野を学び、好きということだけで仕事につなげるのは難しいものだと気づきました。将来なりたい職業が漠然としている中、映像情報デザインの授業で映像制作に興味を持ちました。映像は時間や音、動きなどの要素が加わり、より表現の幅が広がることに新鮮さや魅力を感じました。こうした分野を学んでいく中で自分が趣味でやりたいことと、仕事にしたいことの区別は大事だと個人的に思いました。また、研究室に所属し課題に取り組む中で、それがどう人の役に立つか、より自分の中で仕事につなげるイメージができました。初めは映像制作もゼロスタートで分からないことばかりでしたが、先生方や先輩方にご指導いただき、この数年間の学びで表現できる幅がずっと広がったと思います。まだできないこと、学ぶことが山積みですが、大学での学びを糧に社会で活躍していけたらと思います。

卒業制作展

デザイン学科

空間プロダクトデザイン領域



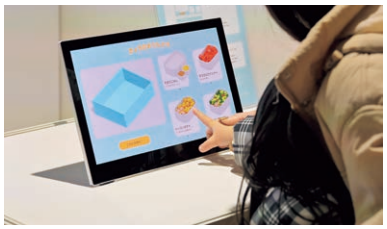
卒業のことば

デザイン学科　空間プロダクトデザイン領域　大西 麻里奈

大学３年生になり研究室に配属されてすぐ、課題が上手く進まず悔しくて泣いたことがありました。向いていないのではないか、このままの自分でやっていけるのか、不安や焦りもありました。同時に「こんなに真剣になれるものに出会えて幸せだ」と喜びの感情が湧いてきました。そしてそんな一見相反する感情を共有できる友人や助言をくださる教授に出会えたことにとても感謝しています。悔しくて泣いた日も、大学が閉まるギリギリまで作業した日も、疲れ果てた後にみんなで食べたご飯も、何十年経っても褪せることのない思い出になるのだと思います。私はデザインの道を志して上京し、工芸大に入学しました。人生は選択の連続だと聞いたことがあります。どんな選択をしてもそれを正解にするのは自分自身なのだとこの４年間を通して実感しました。

私は優柔不断で考えやすい性格なのでこれからもアンビバレントな感情と共に生きていくのだと思います。もし立ち止まったとしても考えることを止めず美しさを追求し、デザインの先にいるひとりひとりを想い、社会に貢献できる人間でありたいと思います。

卒業制作展
インタラクティブメディア学科



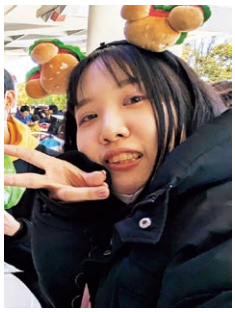
卒業のことば

インタラクティブメディア学科　田浦 愛

卒業制作展で見た体験型の作品がとても印象的だったのを覚えています。当時私は高校で映像について学んでいましたが、思い切ってインタラクティブメディア学科に飛び込みました。

しかし１年次はコロナの影響を受けて遠隔授業に！身についている感覚が得られず、このままぼんやりと卒業してしまうのかなと考えたこともありました。そんな中で転機になったのは３年次のゼミ選択です。ゼミに所属してすぐに美術館で作品を展示する機会をいただきました。授業課題とは別で作品を制作しており慌ただしい日々でしたが、元々創作活動が好きだったのでとても楽しかったです。そして実際に展示して自分の想定以上に楽しんでもらえた時の嬉しさは忘れられません。

この展示をきっかけに仲良くなったゼミのメンバーは皆意欲的で、彼らの作品に対する熱意にとても刺激を受けて私自身の創作意欲も強くなりました。振り返ると常に何かを制作していた気がします。自分の力量不足を痛感する場面も多々ありましたが、制作の過程で得た学びは自分の中に蓄積されています。入学当初の不安だった自分に教えてあげたいくらい、とても濃密で充実した時間でした。



それでも私は作り足りなくて大学院に進学することを決めました。私が進学の選択ができたのは、貴重な経験ができたことと、周囲の人が支えてくれたおかげだと思います。４年間の経験を糧に今後も作品制作を続けていきたいです。

卒業制作展

アニメーション学科

卒業のことば

アニメーション学科 大槻 亜有実

私は入学時、大学で出会う友人がアニメーションに詳しい人ばかりで驚いたのを憶えています。知識だけでなく、これまで周りに小人数だった“絵を描ける人”が増えたことで、自分の中で「描かなければこの人たちに置いて行かれる」という意識が芽生えました。

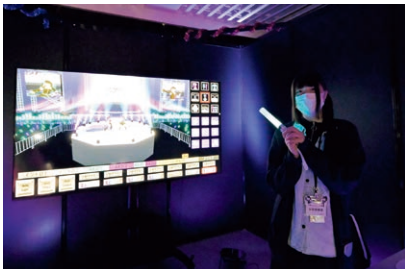
１年生の自粛期間や２年生での実技のみ登校は良い思い出とは言い難いですが、家にいる時間が長かったため画力向上の時間に費やせたので私としてはありがたくもありました。授業で習ったadobeソフトを趣味で使ってMVを作ったり、オンラインで他の人と同じキャンバスに絵を描くツールで絵を描いたり、とにかく絵に集中していたと思います。

その中で、自分の中にあったのはやはり「皆に置いて行かれたくない」という気持ちでした。これは単なる焦りではなく、友人たちは絵を描くことやアニメーションが好きで、私自身も皆の作品が好きだからこそ、並び立ちたいと思ったのです。

私は、友人がいたからこそ、就活や卒制を乗り越えた今があると思います。目に見える切磋琢磨ではなくとも、目標にしたり、羨ましいと思ったりを繰り返せたこの環境が、私を成長させてくれたと感じます。

卒業制作展

ゲーム学科



卒業のことば

ゲーム学科　清水 希倫

ゲーム学科を受験する時、「僕の考えた最強のゲーム」を作りたい。というようなことを書類に書きました。大学に入ってからは、リーダーとして３回ゲームをチームで制作する機会がありました。その間、僕はリーダーとして、いかにメンバーと制作をするかという事を考えていました。

２年生と３年生の制作は、リーダーとして力不足で、独りよがりな作品となってしまいました。僕は、一人の「僕の考えた最強のゲーム」には限界あるという事に気づきました。メンバー全体がゲームを完成させるために動くことができれば、今までのゲームより面白い物ができると確信していました。しかし、メンバーにどう制作に関わってもらうかが分からずにいました。

卒業制作で、リーダーとしての心構えを先生方から学びました。メンバーとどう接するべきなのか、どうチームの一員であると感じてもらうのか。これが僕に足りていなかったパーツでした。「みんなで考えた最強のゲーム」を完成させることができたのは、先生方とメンバーのおかげです。今後は、ゲーム業界で、より大規模に「みんなで考えた最強のゲーム」を作るため身に付けた事を活かし、さらに吸収しながら活動していきたいです。

卒業制作展

マンガ学科

卒業のことば

大学院 マンガメディア領域　田中 宰

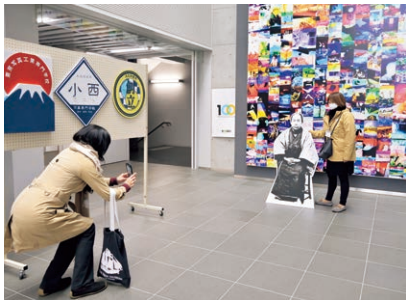
私が当時学部３年であった2020年にコロナ禍が始まり、授業が全て遠隔になりました。私はそこで人のいない校舎を使って大きな立体作品を制作しました。当時はマスクやトイレットペーパーが品薄になるのではないかと言われていたため、近い将来人々が、互いのマスクを追い剥ぎすることでマスクから解放される、という作品でした。卒業制作では、音楽グループであるYMOの、あまり有名ではない結成当時の伝記を四コマ漫画にする試みをしました。現在も制作を継続させており、機会を見て出版することを計画しています。大学院では「四コマ漫画」という形式がほとんど研究されていないことに着目し、それを定義づけている「起承転結」という概念の虚構性を指摘する研究をしました。一方で課外活動では、サークルであるマンガ似顔絵隊に参加しており、イベントがある度にその土地へと向かい、現地の方々を描くという活動をしました。これらは学生生活におけるほんの一部であり、挙げれば枚挙にいとまがありません。改めて、ここまで自由に活動させてくれた大学には感謝をしております。本当にありがとうございました。

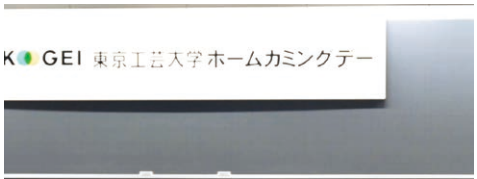
第14回ホームカミングデー

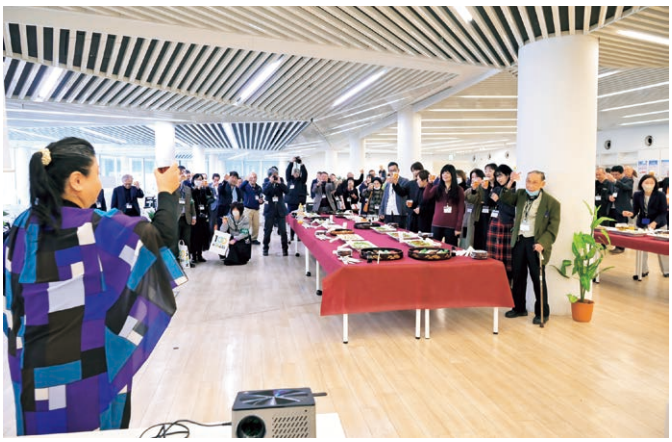
2023年11月25日(土)、中野キャンパス１号館で大学主催の「第14回ホームカミングデー」が開催されました。専門学校、短期大学、短期大学部、芸術学部、工学部、女子短期大学部の各卒業生が対象で、約90名の方が参加いたしました。1B01大講義室での式典では、吉野弘章学長より歓迎のご挨拶があり、2023年に大学が創立100周年を迎えたことの報告がありました。また、卒業50年目・25年目の卒業生に対し恒例の学友記が受賞されました。25年目の卒業生は、芸術学部が誕生して最初の卒業生です。実は2024年は芸術学部開設30周年の節目の年となります。式典の最後は、「てじな～にゃ」でお馴染みの山上兄弟によるエンターテイメントショー！で盛り上がりました。山上兄弟の弟・暁之進さんは映像学科の卒業生なのです。

式典のあと学生食堂に移動し懇親会へ。船木工学部同窓会長のご挨拶に続いて、宮永女子短大同窓会(華輪会)会長の乾杯のご発声で軽食を食べながら歓談のひとときを過ごしました。最後に本同窓会の安達会長の締め、そして立川同窓会事務局長の三本締めで宴はおひらきとなりました。

（上田 耕一郎　75期）







山上兄弟によるエンターテイメントショー

写真提供：都筑写真事務所

2024フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割と国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年に設けられ、今回で45回目を迎えます。

本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、英国のフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。

また、同窓会からご支援をたまわり、本学100周年が目前となった第43回よりあらたに奨励賞を設けることができましたこと、ここにあらためて御礼申し上げます。

受賞作品は２月26日から３月23日まで写大ギャラリーで展示され、会期中の３月２日には表彰式につづき、じつに５年ぶりに授賞パーティーがとりおこなわれました。

同窓生の皆さま、卒業後10年までという制限はありますが、ぜひ次回の「フォックス・タルボット賞」へのご応募をご検討ください。お待ちいたしております。本賞がこれまでにも増して、本学を巣立ち、社会の荒波の中で創作を続ける同窓生の皆さまの励みになればと思います。

フォックス・タルボット賞運営委員長
写真学科教授　圓井 義典

集合写真

吉野学長

立木審査委員長による総評

安達同窓会会長

賞状授与

第一席の吉村 周さん

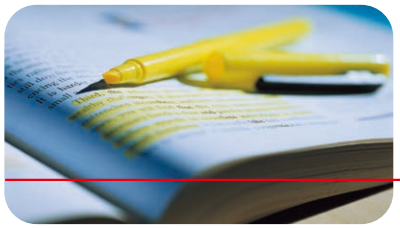
2024フォックス・タルボット賞は、2024年1月31日に審査が行われ、下記の方々が受賞しました。

2024フォックス・タルボット賞　受賞者

第一席	木漏れ日	吉村　周	芸術学部写真学科4年
第二席	渦の目を覗く	山下慎太郎	芸術学部写真学科4年
第三席	meet	吉原千尋	芸術学部写真学科4年
モノクロ賞	Kirin	中島陽和	芸術学部写真学科4年
奨励賞	獣の影	森　凌我	芸術学部写真学科4年
佳　作	PLANT PLANET	亀岡倫太郎	芸術学研究科 メディアアート専攻2年
佳　作	Bird's eye view	岩間　響	芸術学部写真学科4年
佳　作	銀の滴降る降るまわりに,	大島宗久	大学院2014年卒
佳　作	我が家、消費することから見れば	カク　ギョウエイ	芸術学部写真学科3年
佳　作	あわいの中で	沢田優生	芸術学部写真学科4年

審査委員の先生方　立木義浩(委員長)　中谷吉隆　小林紀晴　梁丞佑　本城直季　（敬称略）

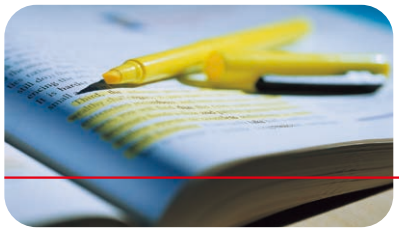
※学年は受賞当時のものです。



2023年度　学位授与式

2024年３月25日(月)文京シビックホール・大ホールにて2023年度芸術学部・芸術学研究科の学位授与式が執り行われました。長年会場となっていた中野サンプラザの閉館により、新しい会場での門出となりました。コロナ禍以降、2019年度は式典の中止、2020年度からは、午前と午後に分割して短縮プログラムで挙行されていましたが、今回は久々に通常の形での式典となり、同窓会からは、安達会長が祝辞を述べられました。卒業生の皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

（上田 耕一郎　75期）



2023年度　卒業祝賀会

学位授与式のあと、会場を池袋メトロポリタンホテル３階富士に移して、後援会並びに同窓会共催の「卒業祝賀会」が開催されました。祝賀会もコロナ禍において開催が見送られていましたので、５年ぶりとなりました。会場は卒業生と先生たちの笑顔が溢れ、とても楽しいひとときとなりました。学科ごとの記念撮影も復活し、大いに盛り上がりました。　（上田 耕一郎　75期）

学位授与式・卒業祝賀会の写真提供：都筑写真事務所

ひろばのページ

2024年度入学式

2024年４月２日、神奈川県民ホールにて2024年度の入学式が挙行されました。芸術学部に693名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。

令和5年度　後期定例理事会開催報告

令和５年度　同窓会後期定例理事会を、令和５年12月19日(火)16:45～18:45、東京工芸大学中野キャンパス２号館２階2203教室にて開催いたしました。構成理事33名のところ、28名(うち委任状９名)の出席により理事会開催が成立し、全ての議案に関してご承認頂きました。

議題

1．令和５年度前期事業報告について(報告事項)
　(1)事業委員会
　(2)総務委員会
　(3)広報委員会
　(4)名簿委員会
2．令和５年度中間収支報告について(報告事項)
　(1)会計委員会
3．令和５年度後期事業計画について(報告事項)
　(1)事業委員会
　(2)総務委員会
　(3)広報委員会
　(4)名簿委員会
4．同窓会創立100周年記念事業について(報告事項)
5．その他

池田陽子名誉教授の遺作展が開催されます

2020年８月に逝去された東京工芸大学名誉教授池田陽子先生を偲んで、人形浄瑠璃の拠点大阪で、池田陽子遺作展 人形浄瑠璃文楽「魅せられて」を開催いたします。この作品展は2021年７月に東京四谷ポートレートギャラリーで開催した展示の巡回展となります。

池田陽子先生は1964年３月に東京写真短期大学(現・東京工芸大学)を卒業後、助手、講師、助教授を経て教授となり、2009年に定年退職するまで、45年間に渡って写真教育に携わってこられました。その傍ら制作研究活動として半世紀以上「人形浄瑠璃」をテーマとして写真を撮り続けてきました。

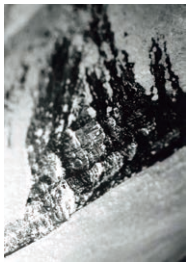
先生の作品を通して、多くの方々に文楽の魅力を感じていただければ幸いです。　立川 宏司(42期)

東京工芸大学名誉教授
池田陽子遺作展「魅せられて」
人形浄瑠璃 文楽
会期／2024年６月25日(火)～６月30日(日)
時間／10:00～18:00(最終日は15:30終了)
会場／enoco(大阪府立江之子島文化芸術創造センター)
　　ルーム４(１階)
　　大阪市西区江之子島２丁目１番34号
会期中無休／入場無料

展示会・出版の記録

展：展示会名　作：作者　所：場所　期：会期
※学年、職位等は開催当時のものです

展：東京工芸大学創立100周年記念企画　芸術学部フェスタ　百花繚乱
作：
所：東京工芸大学中野キャンパス
期：2023.11.6-2023.12.1



展：吉田志穂展「この窓から見えるものが変わったとしても」
作：吉田志穂(写真学科90期)
所：東京工芸大学　写大ギャラリー
期：2023.11.10-2024.1.31

展：山口規子写真展「WAS THERE.」
作：山口規子(写真技術科61期)
所：MONO GRAPHY
期：2023.11.30-2023.12.24

展：ゾーンシステム研究会　第27回写真展　光への探求ー銀塩写真の魅力
作：中島秀雄(写真技術科43期)
所：アイデムフォトギャラリー「シリウス」
期：2023.12.7-2023.12.13

展：上條正名写真展「夢の跡 'After the Thrill is Gone'」
作：上條正名(写真技術科43期)
所：Alt_Medium
期：2024.1.26-2024.2.7

展：金森玲奈写真展「まんぷく図鑑」
作：金森玲奈(写真学科78期)
所：Jam Photo Gallery
期：2024.2.13-2024.2.25

展：東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2024
作：
所：東京工芸大学中野キャンパス
期：2024.2.16-2024.2.18

展：小林菜奈子展「ここでブリンクを発動～A journey for the place of trigger～」
作：小林菜奈子(写真学科97期)
所：same gallery
期：2024.2.17-2024.2.25

展：写真専攻大学・専門学校選抜作品展New Generation Photography 2024
作：佐々木杏葉(写真学科3年)
所：ニコンプラザ東京　THE GALLERY
期：2024.2.20-2024.3.4

展：川島 崇志展「茶の馬とオリーブ」
作：川島崇志(写真学科84期・大学院86期)
所：一初　ippatsu
期：2024.2.24-2024.4.9

展：東京工芸大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展New perspective 2024
作：新井颯斗・イン ルンミイン・大矢彩加・沢田優生・鶴田弥弓・道場美秋・中島陽和・永井紅太・西川未優・西野未悠・武藤巧樹・森 凌我・山下慎太郎・ヨウ テンリン(写真学科4年)
所：ソニーイメージングギャラリー銀座
期：2024.3.1-2024.3.7

展：東京工芸大学芸術学部写真学科 肖像写真研究室作品展2024
作：相原新奈・宇都木 皐・遠藤幹弥・倉田小町・佐藤厚介・中山聖来・仁保島未琴・真柄誠行・山中祐輝・伊東千穂・小川晴太郎(写真学科4年)
所：ポートレートギャラリー
期：2024.3.7-2024.3.13

展：VOCA展2024　現代美術の展望―新しい平面の作家たち―
作：亀岡倫太郎(写真学科97期・大学院99期)
所：上野の森美術館
期：2024.3.14-2024.3.30

展：東京工芸大学写真学科セレクション-from Freshmen to Junior-
作：赤嶋果歩・石原里亜ジョアナ・カク ギョウエイ・下田洋靖・森下葵衣・栗原みのり・浜中美唯菜・ヨウ ジャクシン・早川未夢・コウ イゼン
所：キヤノンオープンギャラリー2：キヤノンSタワー2F
期：2024.3.23-2024.4.9

展：金森玲奈企画チャリティー写真展「イヌネコLovers vol.7」
作：金森玲奈(写真学科78期)
所：Gallery Paw Pad
期：2024.4.6-2024.4.14

展：土門拳展「祈りの風景ー土門拳自選作品集より」写大ギャラリー・コレクション～
作：土門拳
所：写大ギャラリー
期：2024.4.15-2024.6.1

展：池田陽子遺作展「魅せられて」人形浄瑠璃文楽
作：池田陽子(写真技術科39期)
所：大阪府立　江之子島文化芸術創造センター　ルーム４(1階)
期：2024.6.25-2024.6.30

訃　報

哀心よりお悔み申し上げます。

上田　史郎（23期・写真工業科）
中村　治常（30期・写真工業科）
秋元（旧姓 佐野）茂子（32期・写真技術科）
古籐　齊（33期・写真技術科）
飯塚　斉（33期・写真工業科）
吉川　範充（35期・写真工業科）
領家　和弘（37期・写真工業科）
三嶋　義秀（38期・写真工業科）
逢沢　義夫（40期・写真工業科）
佐藤　嘉彦（40期・写真技術科）
藤井　恒実（44期・写真技術科）
髙下畑　順子（44期・写真応用科）
石川　義也（49期・写真技術科）

（敬称略）
訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会(規模の大小は問いません)など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

編集後記

東京の桜の開花は、当初の予想よりも随分遅くなりましたね。近年は卒業式の頃には咲くことが多かったのですが、３月になって寒い日も続いた影響でしょうか。私の地元の桜まつりも、まったく桜がない中での開催でした。ともあれ、４月に入って桜も満開となり、新入生も入学してきました。101年目に入った母校の工芸大は、とても元気です。同窓生の皆さんにとっても活気ある１年になることを願っております。

広報委員　上田 耕一郎(75期)

東京工芸大学同窓会　会報『ひろば』vol.148　発行人：安達 洋次郎　〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5　TEL & FAX 03-5371-2732(事務局)　http://www.kougei-dousoukai.jp